

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03476

研究課題名（和文）琉球史料学の基礎的構築に基づく近世琉球史研究

研究課題名（英文）A study of early modern Ryukyu based on the basic construction of Ryukyu historical materials

研究代表者

豊見山 和行 (Tomiyama, Kazuyuki)

琉球大学・人文社会学部・教授

研究者番号：40211403

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、琉球史料学の構築を目的とする。琉球史史料に関する新たな発掘と整理によって新たな研究分野の開拓を図った。その成果の一部として、台湾大学所蔵『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係史料集成』（第3～第5巻、2016年～2018年）を刊行した。その他、仏教関係史料、感染症に関する史料、鹿児島琉球館の運営に関する研究、日本への琉球人の漂着関係史料を新たに発掘した。琉球国の任命文書（御朱印・言上写・印紙）に関する新たな見解を提起した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、琉球史研究において旧来、蓄積の乏しい琉球史料学の構築を図り、それらの史料を活用して新たな研究領域を切り拓いた。台湾大学所蔵の琉球関係古文書を史料集（第3～5巻）として刊行し、ひろく歴史学界に寄与することができた。古文書様式論としては、言上写・御印紙論を展開し、琉球仏教史では真宗法難事件関係の新史料（「日々琉行の記」等）を公刊した。「尚家文書」群の中から感染症や職人編成に関する史料も公刊した。未刊行史料を積極的に公刊することによって、琉球史研究のみならず関係する日本史・中国史研究においても活用しうるように史料の基盤整備をおこなった。その点に本研究の学術的意義が求められる。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study to Ryukyu historical materials. We pioneered new research fields by discovering and organizing new Ryukyu historical materials. As part of the results, we published "Historical Archives of the Ryukyu Kingdom Housed at National Taiwan University Library A Transcription ,Vol.3-5". In addition, we have newly discovered historical materials related to Buddhism, historical materials related to infectious diseases, research on the operation of the Kagoshima Ryukyukan, and historical materials related to the drifting of Ryukyu people to Japan. In this study, we proposed a new view on documents that appoint officials, such as Goshuin Gonjyo-Ustushi and Inshi.

研究分野：歴史学（琉球史）

キーワード：琉球史料学 尚家文書 台湾大学琉球古文書 档案史料 評価方日記 疱瘡一卷 火花方日記 日々琉行の記

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

琉球史分野における古文書などの一次史料(原本・写本)の多くは、琉球国の廃滅(=琉球処分)後の近代以降、とりわけ沖縄戦によって失われた。そのため史料学研究の大きな制約となっていた。しかし、近年では「尚家文書」等の原本文書の史料群が公開されるようになったことなど、史料学研究の基盤が整備されてきた。

## 2. 研究の目的

近世琉球史研究を進展させる上で、琉球古文書の史料学研究は必須である。多種多様かつ形態の異なる琉球古文書を体系的に整理・分類し、古文書固有の特性に即して個々の古文書を史料学的に研究することを目的とした。そのことを通して、琉球国の政治・外交・経済・社会等々の各研究領域に関する正確かつ精緻な研究につなげることも本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

琉球関係古文書に関して、第一に古文書学の方法論に即した研究を行うこと、第二に個別テーマに即した古文書研究を行うこと、第三に未刊行の古文書の翻刻・刊行を行うことである。第二に方法については、内政関係文書および外交・対外関係文書に区分し、関連する古文書の収集および分析・検討を行うものとする。内政関係文書としては主に「尚家文書」等である。外交・対外関係文書としては「档案史料」等である。それらの研究成果については関連学会、研究会等において発表し討議を深める。

## 4. 研究成果

### (1)古文書学の方法論に関する研究

豊見山は、琉球古文書に関して、内政・外交文書、間切・村文書等について、旧来の研究状況を踏まえて全体的に整理した上で、近世琉球国内において発給された御朱印・言上写・印紙に関して、新たな捉え方を学会において報告した。琉球王府による発給文書について、麻生は薄墨文書という表示形態に着目した分析を行った。

琉球史研究において、琉球古文書学に関するまとまった画期的な論集として『琉球史料学の船出 いま、歴史情報の海へ』が刊行された。国王への申請と許可を一体として示す「言上写」に着目した豊見山の論考(「言上写」再論)、辞令書の文書様式に関する屋良の論考(「琉球辞令書の様式変化に関する考察」、島津家文書の原本から国王の誓約書に関する麻生の論考(「近世琉球の国王起請文」)が収録されている。

赤嶺は、琉球の外交文書である「歴代宝案」と関連性の深い「档案史料」を発掘し、「歴代宝案」の精緻な読解に取り組み、成果をあげている。屋良は、旧来ほとんど注目されることのなか

った種子島氏史料から琉球記事を探索することで、新たな史料領域を開拓した。深澤は、「尚家文書」中から鹿児島琉球館に関わる往復文書を詳細に検討することによって、琉球館の役所機能を明らかにした。

## (2) 個別テーマに即した古文書研究

外交関係史分野において、赤嶺は清代中国の漂流民送還に関して「档案史料」の分析から朝鮮へ漂着では、中国沿岸を經由して帰国する事例が多いことを明らかにした。豊見山は、琉球国の対日本・対中国外交の特徴を捉える方法を提起し、さらに琉球人の大和言葉の運用形態を分析した。屋良は、日本各地へ漂着した琉球人の事例を捉えた論考によって、漂流・漂着研究に、新たな視点を加えた。

国内史分野において、麻生は王国末期における先王祭祀等から王族祭祀にあり方を具体的に論及した。豊見山は、「諸物代付帳」を取り上げ、公定価格システムの特質を明らかにした。知名は、琉球藩時代において真宗布教の禁止を巡って、国王尚泰が訴訟対象者となった「琉球藩王訴状」を通して、真宗布教問題を新たな視角から捉えた。

## (3) 未刊行の古文書史料の翻刻・紹介

赤嶺・麻生・豊見山は、国立台湾大学図書館蔵の琉球関係史料として、冊封使渡来時における貿易関係史料である「評価方日記」の全文翻刻・現代語訳・註釈および個別文書に解説を加えて刊行した。本史料は長く非公開であったことから、関係分野の研究に大きく寄与するものである。

麻生・豊見山は、「尚家文書」群から「火花方日記」を取り上げ、その全文翻刻・現代語訳・註釈および解説・関連論考からなる史料集を刊行した。

さらに、豊見山は王国末期における天然痘（疱瘡）に関する史料を全文翻刻し、紹介した。同史料は、琉球国で実施されていた人痘接種方法からジェンナーによって開発された牛痘接種方法への転換を企図したものである。牛痘接種実験の顛末が詳細に記録されており貴重な史料である。豊見山は1829年に王府の財政改革に関する一件文書を全文翻刻し紹介した。同時期における王府財政問題への手がかかりとなる史料である。豊見山は、その他、市来四郎によって筆録された「琉球国要書抜萃」の前半にあたる史料翻刻を行った。同史料は、市来によって作成された大部な史料群（「石室秘稿」）の一部であるが、旧来その利用はほとんど成されていない。翻刻することによって、新たな史実の解明に寄与するものである。

知名・他は、琉球国への真宗布教時に作成された、清原競秀による「日々琉行之記」の全文翻刻と関連史料の紹介を行った。王国末期における琉球仏教史研究の新たな地平を切り拓く史料として位置づけられる。

## (4) 国内外へのインパクトと今後の展望

本科研によって多数の史料翻刻を行うことができた。それらの翻刻史料は、琉球史研究者だけでなく、日本史および中国史研究の分野と密接に関連するものであることから、国内外の研究者に対しても一定の寄与を果たすものとなる。特に、台湾大学図書館と連携・共同して刊行することができた『国立台湾大学図書館蔵 琉球関係史料集成』4巻、5巻）は、和文史料が主であるが、その中には漢文での応答文書が多数含まれている。

これらは、国内外の中国史研究との共同研究に道を開くものとして位置づけられる文書である。以上のことから、同様の史料群に関して、国内外の研究者との連携・共同研究を行い、本研究をさらに発展させる予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 6
2. 論文標題 琉球国後期における公定価格制度について：「諸物代付帳」と「多良間島諸物代付帳」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集：琉球大学人文社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 47,80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 52
2. 論文標題 先王祭祀と琉球王権：琉球王国末期の廟制から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄文化	6. 最初と最後の頁 21,42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 901
2. 論文標題 近世日本の対外政策と琉球	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 18,23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 1
2. 論文標題 王兄尚濬の祀りかた 王国末期の王族祭祀と首里王府	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球沖縄歴史	6. 最初と最後の頁 33,49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 42
2. 論文標題 琉球における冠船ハーリーの諸相 - 1838年を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沖縄芸術の科学：沖縄県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 51,76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 知名定寛	4. 巻 36
2. 論文標題 琉球における第三次真宗弾圧事件と「琉球藩王尚泰訴状」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神女大史学	6. 最初と最後の頁 17,53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 20号
2. 論文標題 琉球史における時代区分論 時代名称・歴史概念の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉大史学	6. 最初と最後の頁 1、12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 5号
2. 論文標題 琉球王府の財政改革史料 (1829年) について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集 (琉球大学人文社会学部紀要)	6. 最初と最後の頁 97、110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺守	4. 巻 5号
2. 論文標題 『歴代宝案』と档案史料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集（琉球大学人文社会学部紀要）	6. 最初と最後の頁 1、15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 知名定寛	4. 巻 35
2. 論文標題 琉球における真宗弾圧と仲尾次政隆の赦免について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神女大史学	6. 最初と最後の頁 1、25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤秋人	4. 巻 31
2. 論文標題 廃藩置県に関する通知 鹿児島琉球館への伝達をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 黎明館調査研究報告（鹿児島県歴史資料センター）	6. 最初と最後の頁 35 - 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 第4号
2. 論文標題 琉球国の外交と日本・明清中国	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集 琉球大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 175 - 191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 1
2. 論文標題 近世琉球之外交與技術：以撰寫公文書之職、サ吶役、庖丁人を中心	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 21世紀視野下の琉球研究	6. 最初と最後の頁 98-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺守	4. 巻 第4号
2. 論文標題 歴代宝案の校訂と档案史料 - 国立故宮博物院収蔵档案史料との校合を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集 琉球大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 知名定寛・福島栄寿・長谷暢	4. 巻 第34号
2. 論文標題 《史料紹介》福岡県小郡市三沢光明寺蔵「清原競秀『日々琉行之記』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 神女大史学	6. 最初と最後の頁 87 - 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 11
2. 論文標題 琉球国における清国・日本医療の受容と展開 『牛痘一巻』の分析を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 第十一回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集	6. 最初と最後の頁 135 - 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊見山和行	4. 巻 3
2. 論文標題 『牛痘一巻』（1868年）について - 史料翻刻と紹介（下） -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 琉球大学法文学部紀要 琉球アジア文化論集	6. 最初と最後の頁 95 - 162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺守	4. 巻 3
2. 論文標題 朝鮮に漂着した琉球漂流民の送還について - 清代中国の送還システムに見る撫恤事例 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 琉球大学法文学部紀要 琉球アジア文化論集	6. 最初と最後の頁 1 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 麻生伸一	4. 巻 1
2. 論文標題 琉球王府発給文書に使われた薄墨について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究報告2016 - 1 琉球王府発給文書の基礎的研究	6. 最初と最後の頁 108 - 115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 屋良健一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 「種子島文書」について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究報告2016 - 1 琉球王府発給文書の基礎的研究	6. 最初と最後の頁 90 - 99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤秋人	4. 巻 219
2. 論文標題 鹿児島琉球館における「役所」の機能 尚家文書三四一号を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国史学	6. 最初と最後の頁 75-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 赤嶺守
2. 発表標題 「道光十八年冠船付評価方日記」に見る評価貿易一告示・稟文・批示・札・甘結・単・領状等の分析を中心にー
3. 学会等名 第十七届中琉歴史関係国際学術会議 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 倭寇研究と琉球
3. 学会等名 稲村賢敷生誕125周年記念海域アジアと倭寇について考えるシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊見山和行
2. 発表標題 琉球史科学の構築と新たな展望
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 摂政・三司官起請文について
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 琉球沖縄の文化と鎌倉芳太郎
3. 学会等名 チューリッヒ大学、INTERNATIONAL SYMPOSIUM:Art of the RyukyuKingdom (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 屋良健一郎
2. 発表標題 近世史料に見る種子島とその周辺
3. 学会等名 奄美沖縄民間文芸学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 豊見山和行
2. 発表標題 琉球における国内発給文書の構成と機能 御朱印・言上写・印紙
3. 学会等名 日本古文書学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 豊見山和行
2. 発表標題 琉球史における時代区分論の課題と展望
3. 学会等名 琉球大学史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 近世末期の即位儀礼と冊封儀礼 尚育王と尚泰王を中心に
3. 学会等名 第16回中琉歴史関係国際学術会議（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 屋良健一郎
2. 発表標題 種子島の家譜史料とその周辺
3. 学会等名 日本古文書学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 屋良健一郎
2. 発表標題 中世・近世日本の対外認識 「うるま」をめぐる
3. 学会等名 日タイ国交樹立130周年記念2017国際シンポジウム「アジアの文化接触・文化変容」（2017年11月4日、於・サイアム大学）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 麻生伸一
2. 発表標題 近世琉球における国王起請文の意義について
3. 学会等名 沖縄・八重山文化研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 豊見山和行、麻生伸一、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 榕樹書林	5. 総ページ数 270
3. 書名 琉球王国尚家文書「火花方日記」の研究	

1. 著者名 屋良健一郎、他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 472
3. 書名 琉球船漂着者の「聞書」世界 『大島筆記』翻刻と研究	

1. 著者名 豊見山和行、赤嶺守、池上大祐、藤田陽子、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ポーターインク	5. 総ページ数 301
3. 書名 島嶼地域科学という挑戦	

1. 著者名 赤嶺守、豊見山和行、西里喜行、麻生伸一、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立台湾大学図書館	5. 総ページ数 514
3. 書名 国立台湾大学図書館展蔵 琉球関係史料集成 第五巻	

1. 著者名 豊見山和行、藤田励夫、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究	

1. 著者名 屋良健一郎、新名一仁、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 洋泉社	5. 総ページ数 255
3. 書名 中世島津氏研究の最前線	

1. 著者名 赤嶺守	4. 発行年 2019年
2. 出版社 沖縄県教育委員会	5. 総ページ数 473
3. 書名 『歴代宝案 訳注本』第6冊	

1. 著者名 麻生伸一、屋良健一郎、豊見山和行、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 334
3. 書名 琉球史料学の船出 いま、歴史情報の海へ	

1. 著者名 赤嶺守・豊見山和行・麻生伸一、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国立台湾大学図書館	5. 総ページ数 321
3. 書名 国立台湾大学図書館蔵 琉球関係史料集成 第四巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	知名 定寛 (CHINA SADAHIRO) (00163725)	神戸女子大学・文学部・教授  (34511)	
研究分担者	赤嶺 守 (AKAMINE MAMORU) (20212417)	名桜大学・公私立大学の部局等・教授  (28003)	
研究分担者	麻生 伸一 (ASOU SHINICHI) (30714729)	沖縄県立芸術大学・全学教育センター・准教授  (28001)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	屋良 健一郎  (YARA KENICHIRO)  (40710158)	名城大学・国際学部・上級准教授    (28003)	
研究分担者	深澤 秋人  (FUKAZAWA AKITO)  (50612785)	沖縄国際大学・総合文化学部・教授    (38001)	
研究分担者	真栄平 房昭  (MAEHIRA FUSAAKI)  (50183942)	琉球大学・教育学部・教授    (18001)	2018年度より病気療養のため、研究分担者を辞退。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関